

資料 3

わが国の化学繊維産業を取り巻く 環境変化について

2010年7月1日

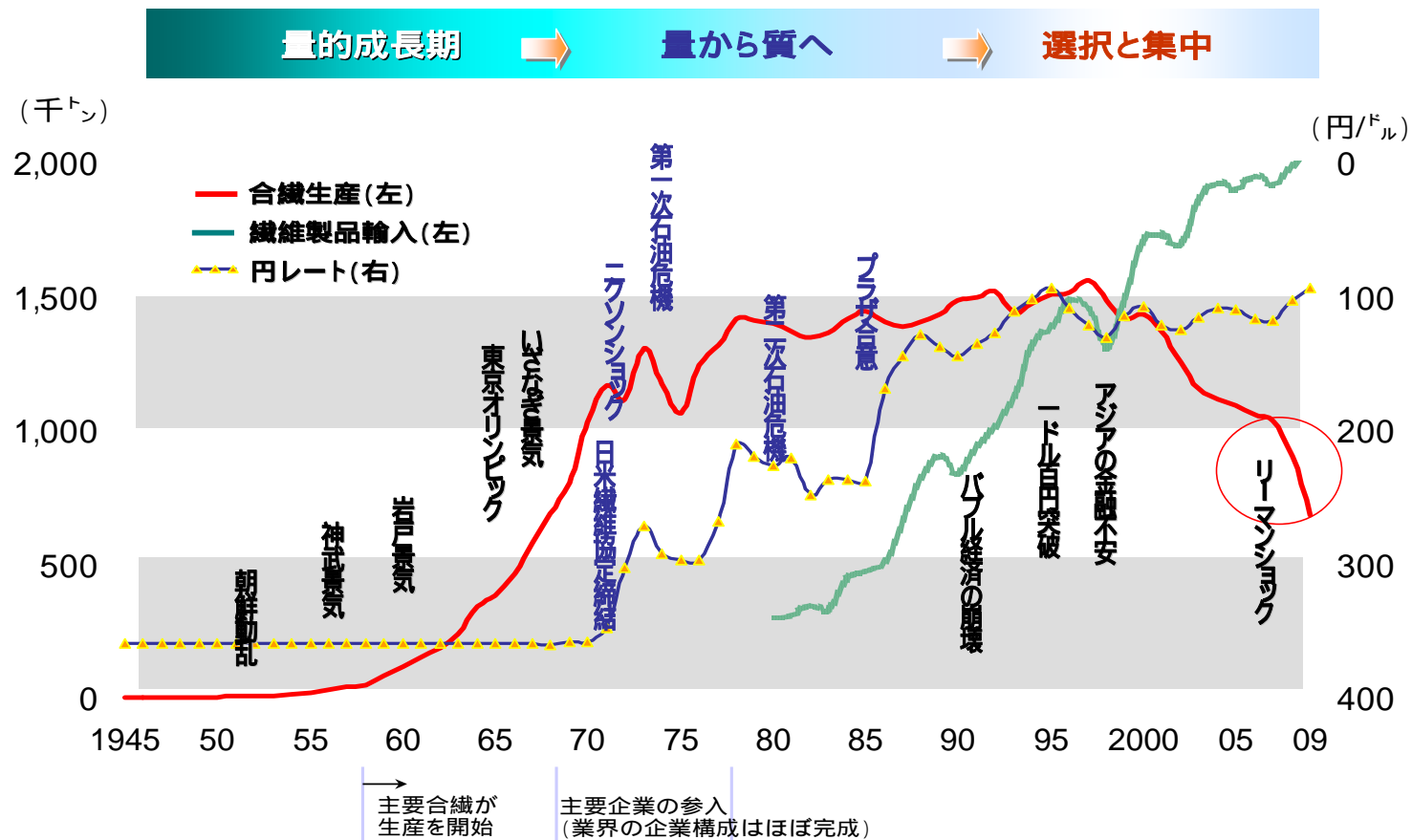
日本化学繊維協会

調査委員会

0 . 日本の化合繊業界の長期トレンド

- ・2009年の日本の合繊の生産量(68.2万ト)は1968年(68.5万ト)を割り込む水準
- ・リーマンショックの影響で日本の化合繊業界は新たな構造変化に直面

図1 日本の化合繊業界の長期トレンド(暦年)



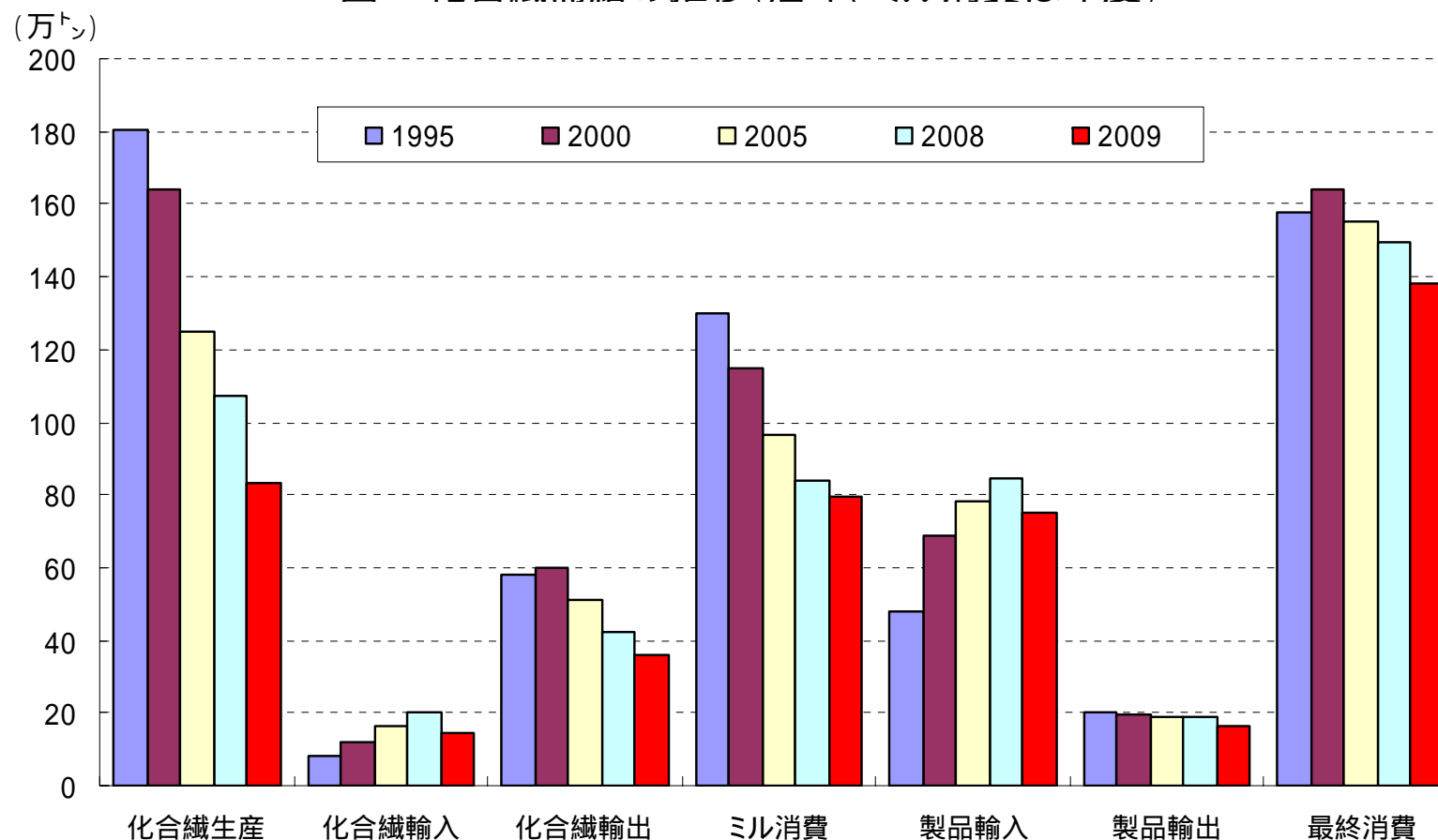
(出所)日本化学繊維協会(原資料:経済産業省、財務省)

日本の化合繊需給の変化

1. 日本の化合繊の需給

- ・最終消費の減少に対して、生産量が大幅減
- ・主な要因は製品輸入の増加、ミル消費の減少

図2 化合繊需給の推移(暦年、ミル消費は年度)



(出所)日本化学繊維協会(原資料:経済産業省、財務省、日本紡績協会)

2. 化合繊生産動向(品種別)

- ・主要合繊の2009年は生産量が大幅減
- ・特にナイロンF、ポリエステルFは1年で過去8年と同水準の減少率

表1 品種別化合繊生産推移

(万ト)

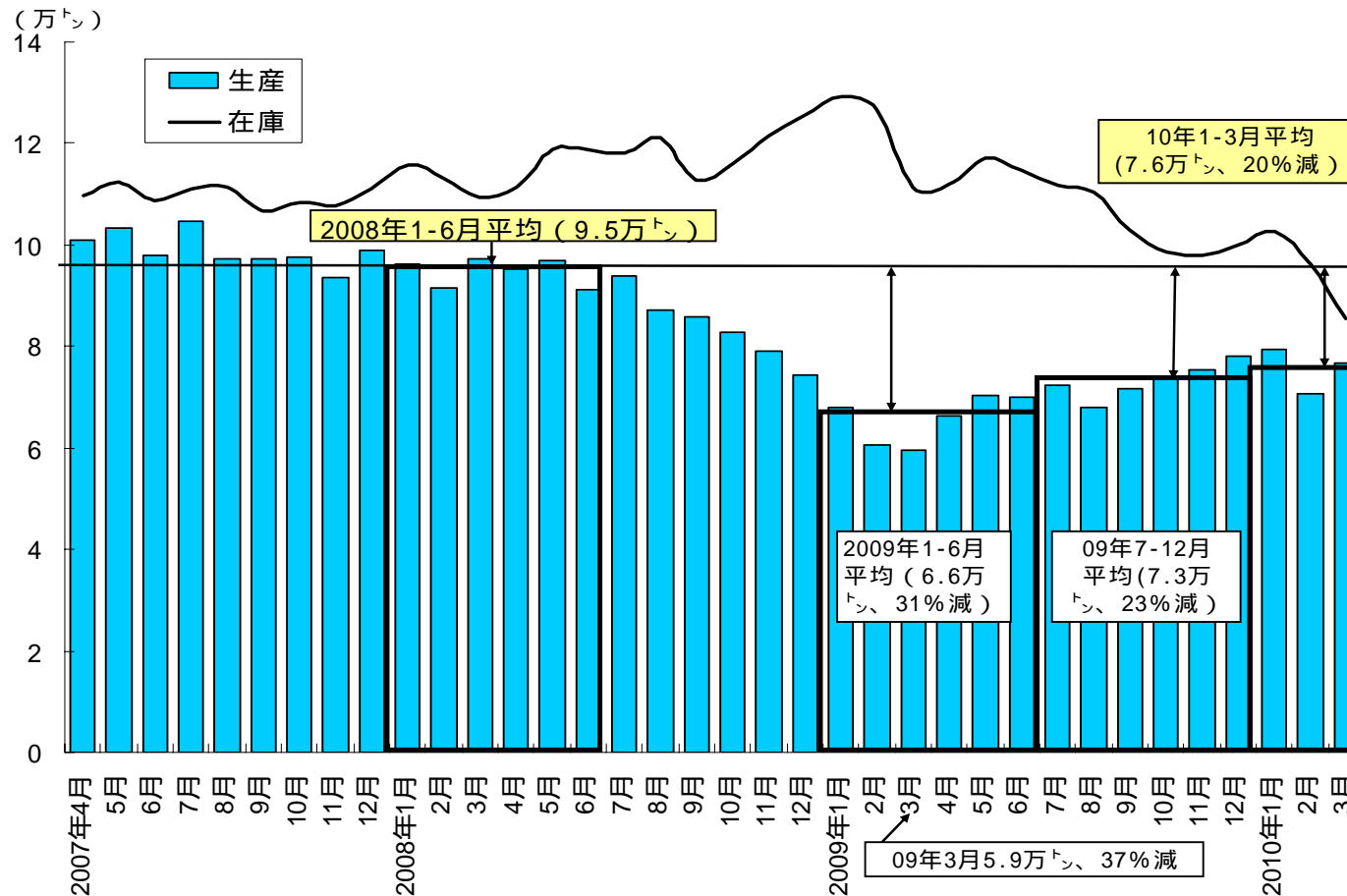
		1995	2000	2005	2007	2008	08/00	2009	前年比
合 繊	ナイロンF	20.1	17.6	11.8	11.7	11.2	-36%	7.4	-34%
	ポリエステルF	43.2	38.3	28.2	26.2	24.4	-36%	16.3	-33%
	ポリエステルS	31.1	28.2	21.4	20.4	19.1	-32%	14.6	-23%
	アクリルS	37.0	37.7	26.1	23.6	14.5	-62%	12.4	-15%
	計	151.0	143.3	109.1	103.5	90.2	-37%	68.2	-24%
セルロース計		29.4	21.0	15.9	15.8	16.9	-20%	15.3	-10%
化合繊計		180.4	164.3	124.9	119.3	107.1	-35%	83.5	-22%

(出所) 経済産業省、日本化学繊維協会

2. 化合繊生産動向(月別)

- ・2009年3月を底に生産は緩やかに回復傾向
- ・2010年1-3月の平均は2008年1-6月平均(リーマンショック前)の20%減の水準

図3 化合繊生産・在庫動向(月別)



(出所) 経済産業省、日本化学繊維協会

3. 化合繊ミル消費動向(全体)

- ・2009年のミル消費(国産)は55万トン、前年比12%減、2000年対比44%減
- ・2009年のミル消費(輸入)は24万トン、前年比12%増、2000年対比45%増
- ・四半期別の合繊4品種では、2009年1-3月から回復傾向、2010年1-3月は2008年10-12月と同水準

図4 化合繊のミル消費の推移
(国産/輸入系別)(年度)

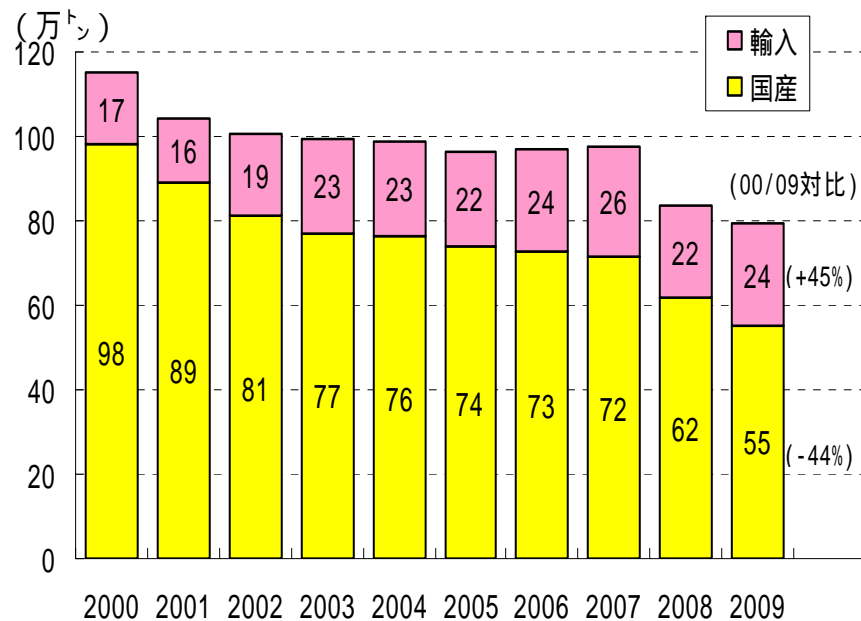
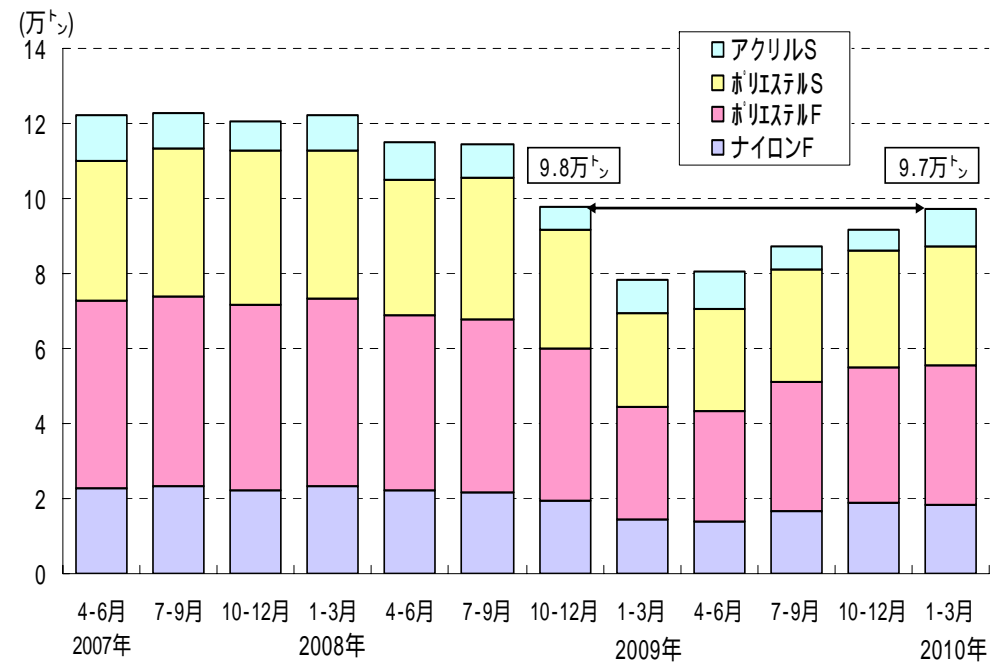


図5 合繊4品種のミル消費の推移(四半期別)



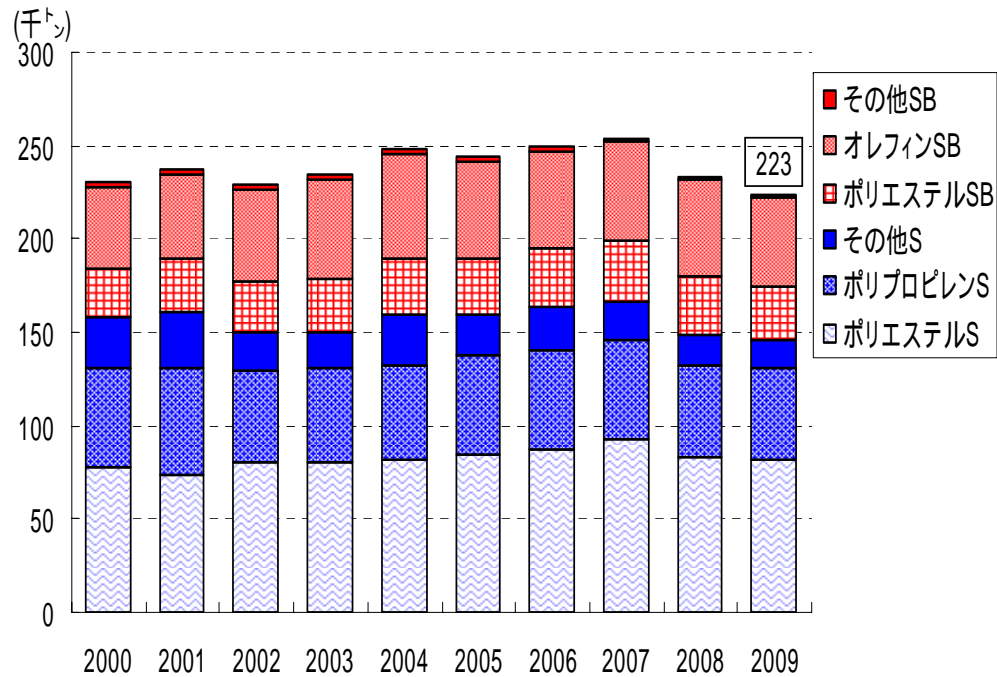
(出所) 日本化学繊維協会

3. 化合繊ミル消費動向(不織布)

- ・不織布向けの化合繊ミル消費は2000年から08年まで堅調に推移
- ・2009年も他用途に比べるとリーマンショックの影響は軽微
- ・結果、化合繊ミル消費に占める不織布の比率は2009年度に40%を突破
(不織布22万トン、全体55万トン)

図6 素材別不織布向けミル消費(国産)の推移(年度)

図7 ミル消費(国産)に占める不織布向け割合の推移(年度)



(出所) 日本化学繊維協会

・ 化合繊産業に関する環境変化

1. 世界の繊維需要の見通し

- ・ PCI (英コンサルタント) の2015年の化合繊ミル消費見通しは、ポリエステルを中心に拡大
(2008年4,351万トﾝが2015年5,395万トﾝへ24%増)
- ・ 地域別には、中国、インド、東南アジアで高い伸び

図8 化合繊ミル消費の推移

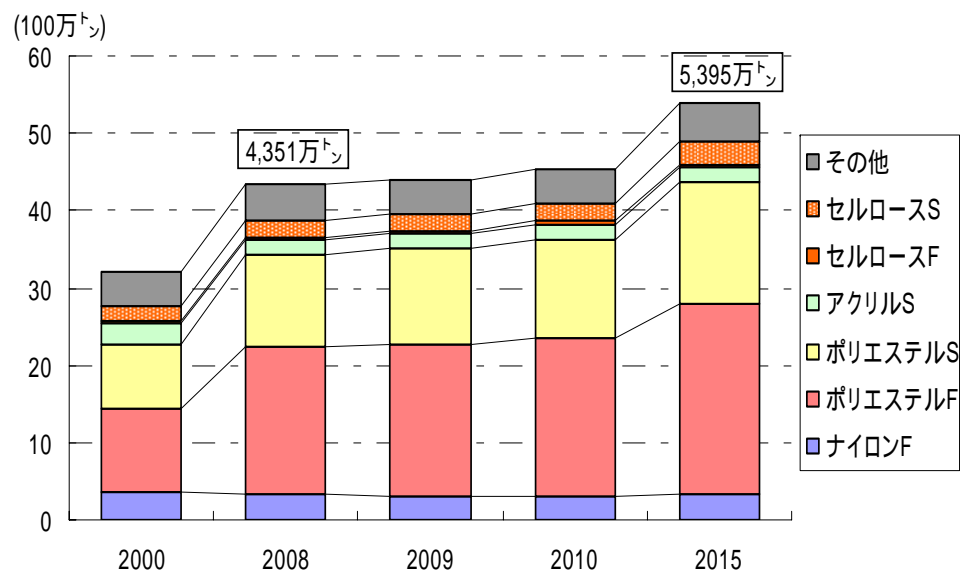
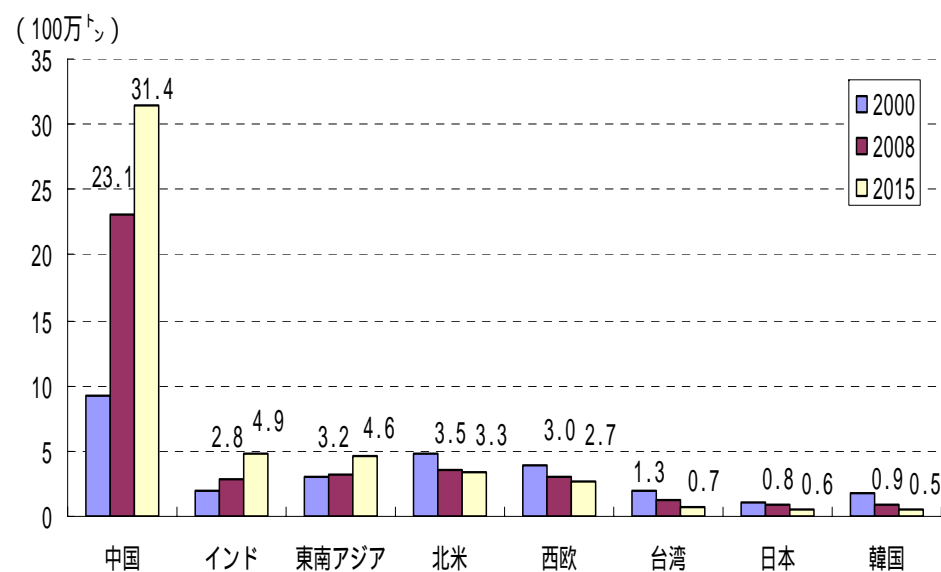


図9 化合繊ミル消費の推移



(出所) PCI

2. 主要用途の化合織市場の変化-自動車(1)

- ・リーマンショックにより輸出が大きく減少 生産の大幅減
- ・2009年後半以降、生産はリーマンショック前の8割水準まで回復
- ・自動車の国内生産は長期的に横ばい、海外生産が増加
- ・世界の自動車生産は中国、インドが拡大、今後も拡大の見通し
- ・ただし、部品は現地車仕様の低価格品が要求される

図10 日本の自動車国内生産、日系メーカーの海外生産推移
(万台)

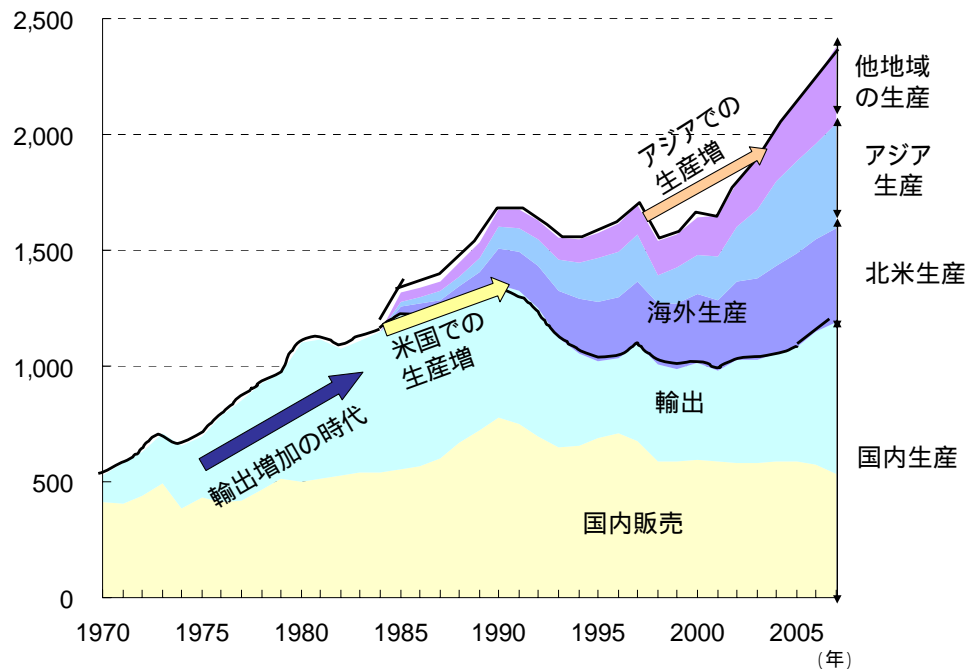
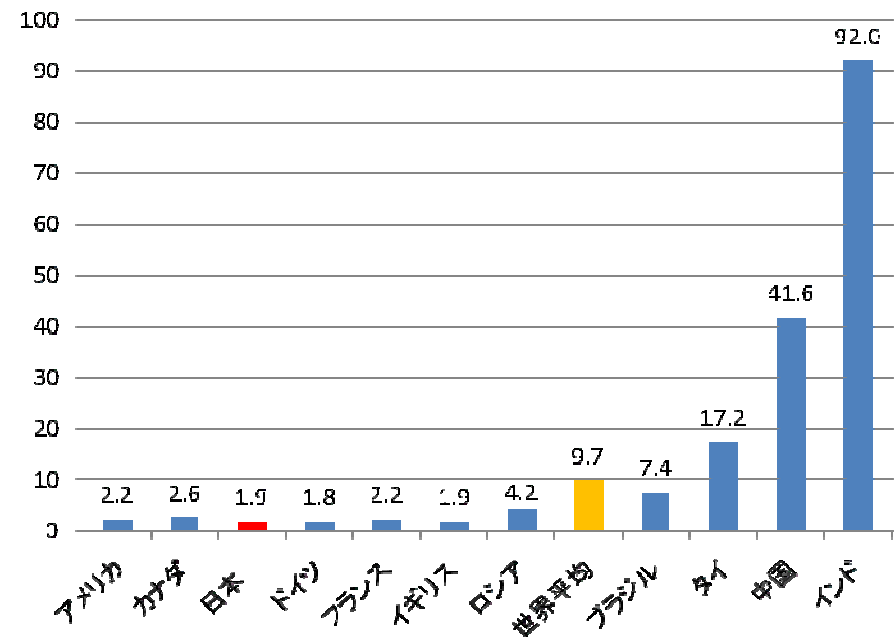


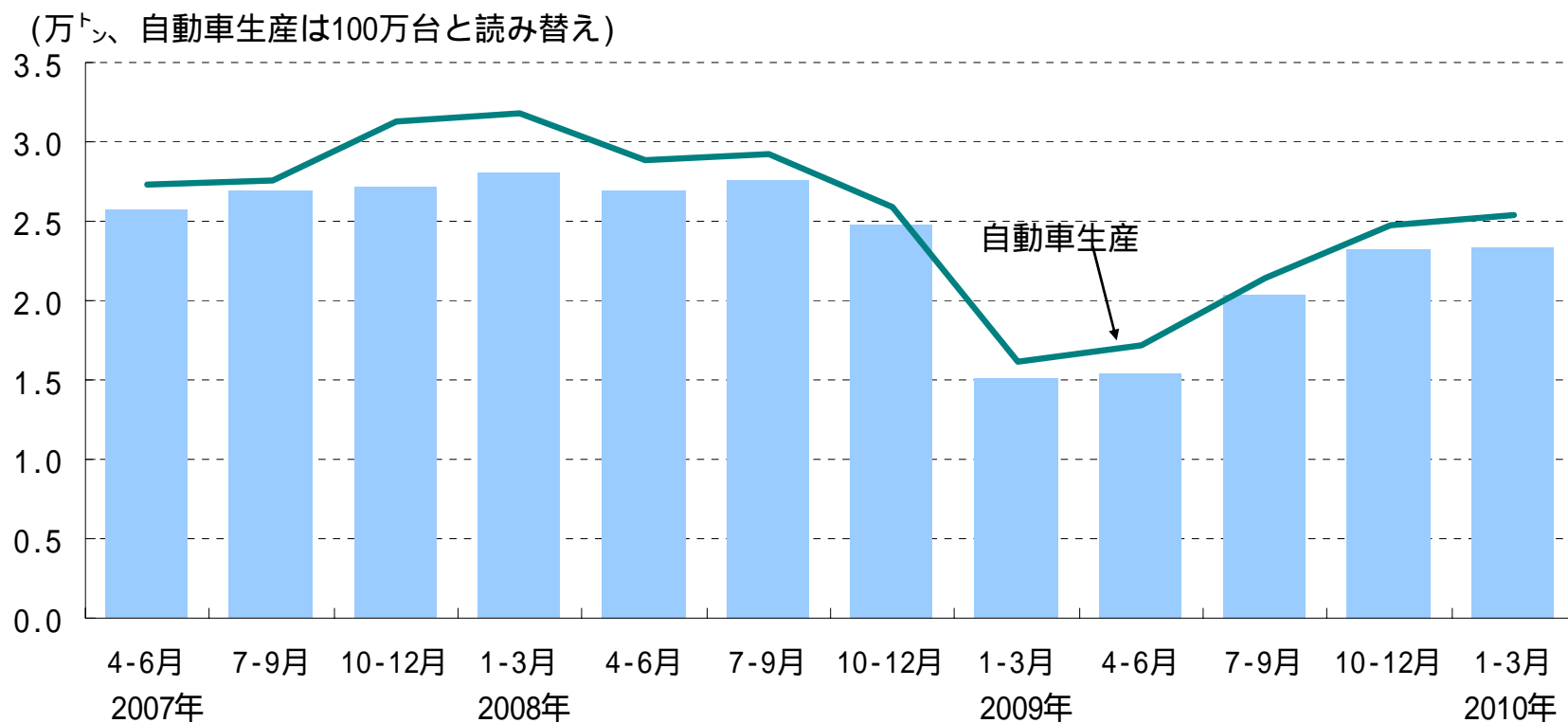
図11 乗用車1台あたりの人口(2007年)



2. 主要用途の化合繊市場の変化-自動車(2)

・自動車用のミル消費は自動車生産台数とほぼ同様の動き

図12 自動車用途向け合繊4品種のミル消費の推移(四半期別)

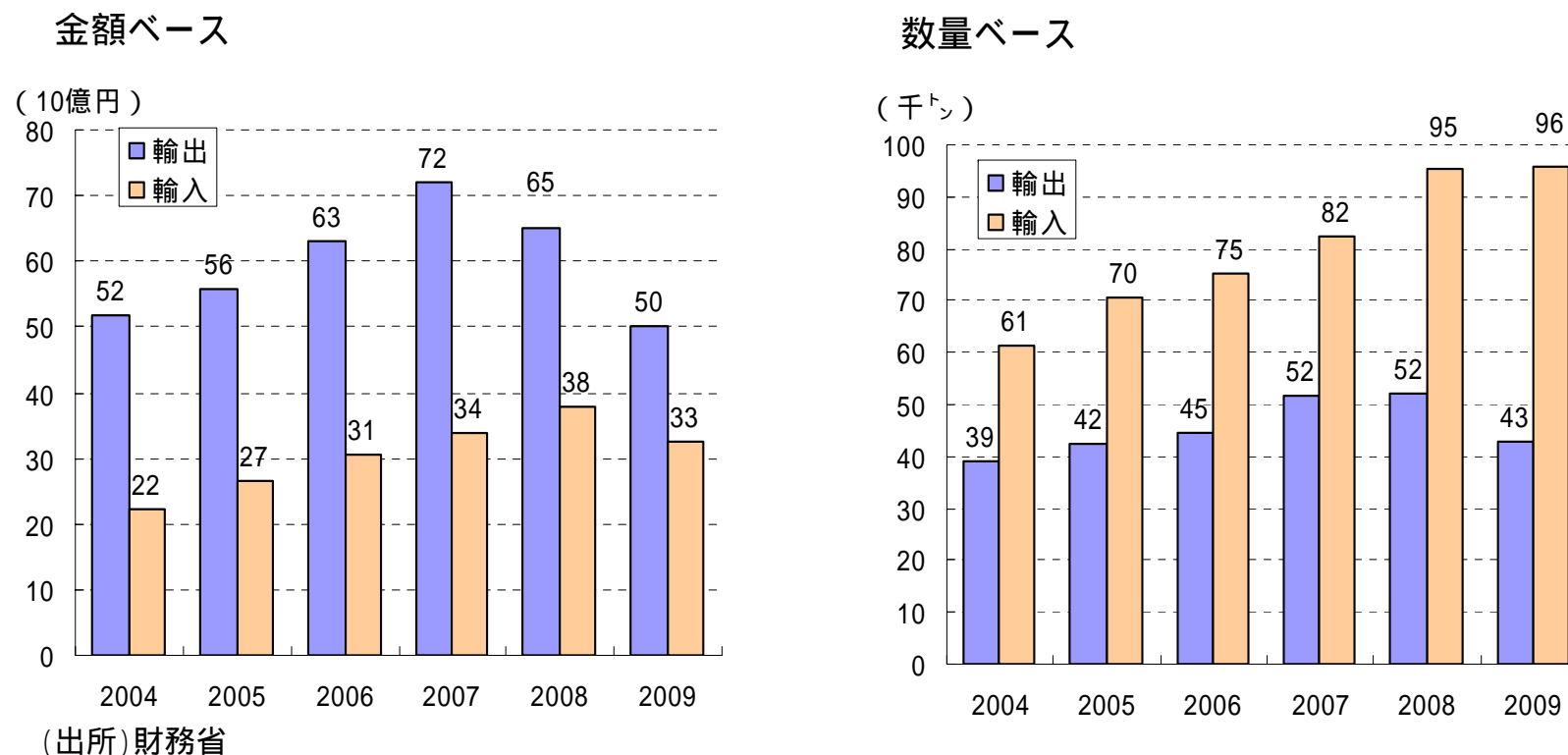


(注)自動車用途向けには、タイヤコード、内装材、シートベルト、エアバッグ、不織布などを含む
(出所)日本化学繊維協会、日本自動車工業会

2. 主要用途の化合織市場の変化-不織布

- ・日本の不織布生産は堅調な推移、医療・衛材が最大用途
- ・紙おむつ用途は、国内需要は安定見込み、新興国の需要拡大に期待
- ・日本の不織布の貿易バランスは、金額ベースで出超を維持
- ・輸入は2004年以降数量ベースで増加傾向

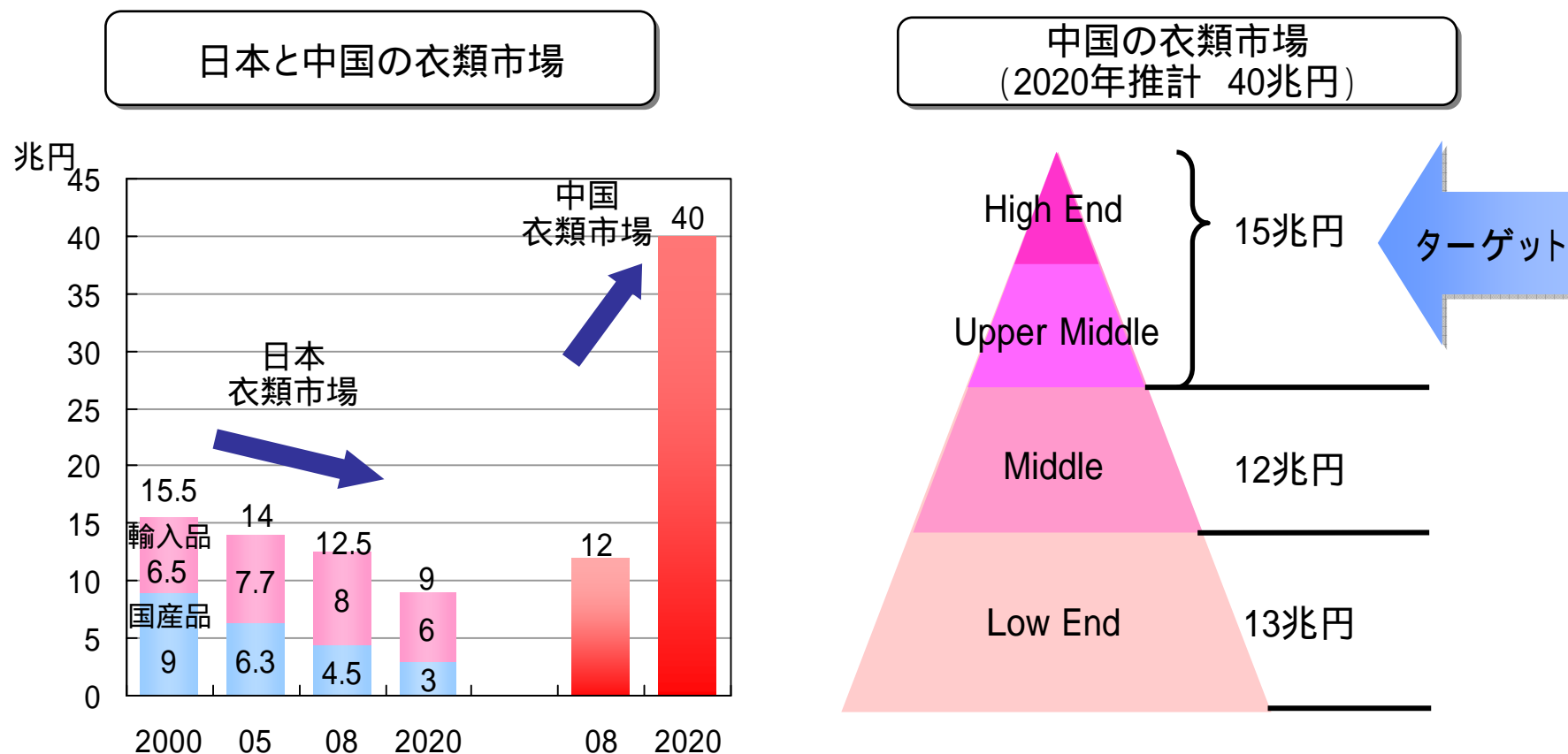
図13 日本の不織布の輸出入



2. 主要用途の化合繊市場の変化-衣料

- (2009年の日本の衣料品市場は数量ベースで95%の輸入浸透率)
- ・中国の繊維産業は過去10年で急速に拡大
 - ・中国の衣料用内需は、ハイエンド、アッパーミドルの市場規模拡大に期待

図14 日本と中国の衣料品市場

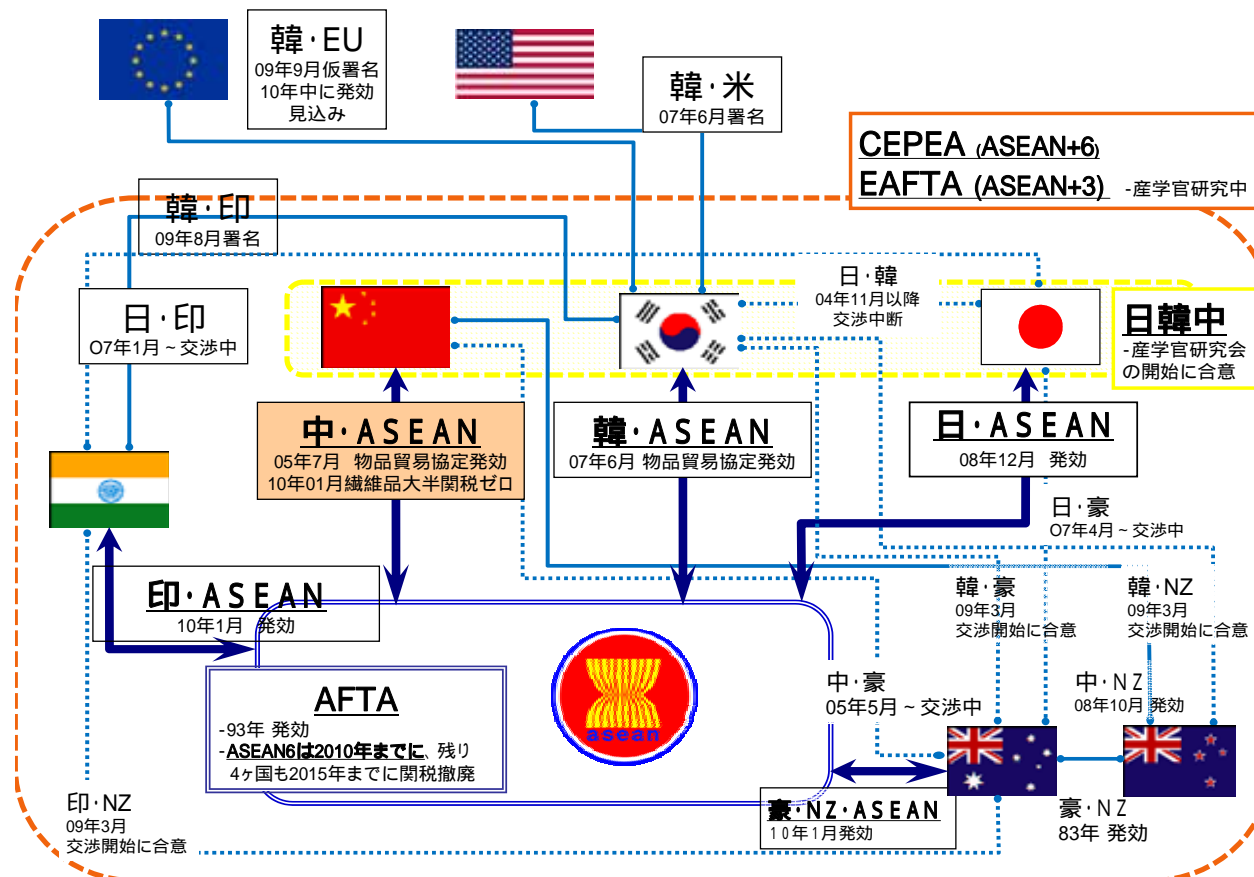


(出所) 日本化学繊維協会

3. 国際環境の変化(FTAの進展など貿易自由化の動き)

- ・アジア域内で急速にFTA/EPAのネットワークの拡大
- ・日本および世界の繊維企業は適地生産化を検討・推進

図15 東アジアでの経済連携の動き



(出所) 経済産業省

3. 国際環境の変化 (アンチダンピング(AD)の状況)

- ・アジア主要国で化合繊関係のADが頻発
- ・発動国ではインド、対象国では中国が頻出
- ・日本の発動はポリエステルSのみ

図16 繊維品(HS11部)に対するAD調査開始件数

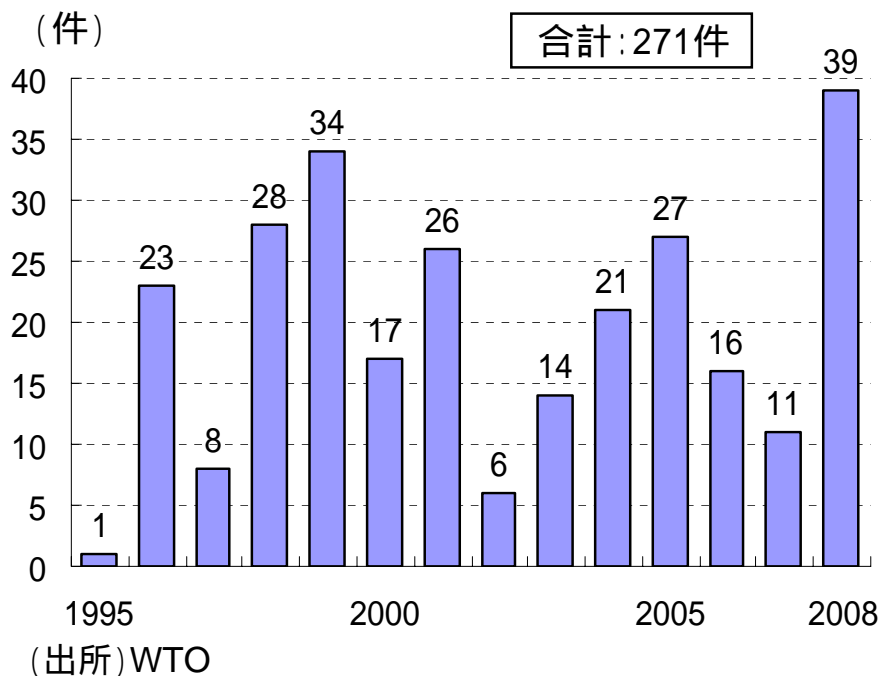


表2 アジア主要国を対象とした化合繊関係のAD措置

発動国	輸出国(主要国のみ)	品目
米国	中国、韓国、台湾、インドネシア、タイ	ポリエステルS
EU	中国	ポリエステルF強力糸
	台湾、トルコ、マレーシア、インドネシア、タイ、インド	ポリエステルF加工糸
	中国、韓国、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、インド	ポリエステルS
日本	韓国、台湾	ポリエステルS
韓国	中国、台湾	ポリエステルPOY
中国	韓国	ポリエステルS
	日本、韓国、台湾、シンガポール	スパンデックス
インド	中国、タイ、ベトナム	ポリエステルF
	タイ	ポリエステルPOY
	韓国、台湾、マレーシア、タイ	ポリエステルS
	日本	アクリルS
	中国	レーヨンF
	中国、インドネシア	レーヨンS
パキスタン	中国、インドネシア、韓国、タイ	ポリエステルS
アルゼンチン	中国、インド	ポリエステルS
	中国、インドネシア	ポリエステル加工糸
南アフリカ	中国	ポリエステルS

(出所)日本化学繊維協会

4. 川中産業の動向

- ・川中産業の設備能力は、リーマンショック前の1990年から2008年までに既に大きく減少
- ・2009年もさらに減少、産地機能の維持が困難な状況
- ・課題
 - 輸出ビジネスの再構築
 - 高機能衣料品、非衣料分野へのシフト
 - 産地内、産地間のコラボレーション

表3 川中産業の主要設備推移

		1990	2000	2008	08/00	08/90	2009
化合織	トン/日	6,195	6,108	4,711	-23%	-24%	4,406
紡機	千錘	9,664	3,761	1,667	-56%	-83%	1,456
織機	千台	376	123	68	-45%	-82%	49
ミシン	千台	165	156	88	-44%	-47%	79

(出所) 経済産業省

5 . 原料供給に係わる石化業界の動向

原料価格の高騰(要因は原油価格だけではなく、複雑化)

国内石化産業の環境変化と構造問題(コスト差、エチレン生産規模、精製との連関不足)

中国の石化産業(現状・見通し・日本への影響)

中東の石化産業(同上)

日本の石化産業をとりまく環境変化と今後の方向性

主要合繊原料の需給見通し(中国・中東・インドなどの影響力拡大)

エチレングリコールの地域別コスト比較(中東の圧倒的優位)

結 論

- ・原料調達からみて、日本は化繊産業の立地条件としてさらに劣位に(この点からも高機能化、差別化は必要)
- ・原料調達ルート多様化の必要性(種々の調達リスクを回避)
- ・調達の困難化が想定される製品については要リスク管理(添加剤、油剤、染料等)

中国の高機能繊維の発展状況

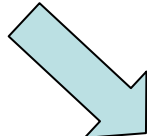
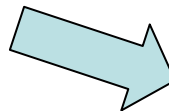
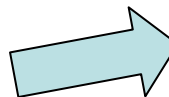
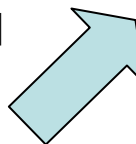
- 中国は、高機能繊維を国家戦略として位置づけ、量的な拡大と質的な向上を計画
- 中国の高機能繊維の開発を支える研究開発体制は日本に比べ優位性あり

表4 第11次5カ年計画における中国の主要高機能繊維の設備能力の目標値

繊維品種	2010年 目標値	現状 (2009年推計)	同計画における 2020年目標値
炭素繊維 (PAN系)	3,000	9,000(約20社)	5,000
メタ系アラミド繊維	6,000	5,300(2社)	10,000
パラ系アラミド繊維	500 ~ 1,000	1,000(試験生産段階)	5,000
超高分子量ポリエチレン 繊維 (UHMWPE)	3,000	5,600(09年生産量)	10,000
PPS繊維	1,000	1,000以上	10,000

(出所) 日本化学繊維協会

日本の化合織産業の課題(1)

	5年後の国内ミル消費の見通し	課題	何をすべきか
衣料	引続き減少傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国需要の取り込み ・新規用途開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・一段の構造改革 ・機能性を軸とした新たなビジネス展開（スマートテキスタイル、Eビジネス等）
自動車	全体として微減 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車向け新規需要への対応 ・自動車の適地生産化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応を含む先端素材の開発 ・グローバル調達への柔軟な対応
不織布	全体として微増 	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国需要への対応 ・専門性を高めた用途拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維の枠を超えた販売体制作り ・高機能ポリマーの用途開発、コストダウン、品質改良
高機能繊維	内需、輸出とも増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・出口戦略(異業種との効果的な連携を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・用途開発、共同開発、コストダウン ・輸出拡大への取組み ・国際標準の制定

・日本の化合繊産業の課題(2)

(1) 高付加価値・高機能繊維の開発

業界間の企業連携(業界再編)

戦略品のコスト削減(製造工程の革新)

新規用途開発(ユーザー業界との連携)

次世代ポリマーの共同開発(産官学連携)

国家プロジェクト(出口戦略)

クラスター構築(川中との協業)

(2) 成長する新興国市場に向けた事業展開

高機能繊維の積極的な展開

安全保障貿易管理制度の柔軟性確保

国際標準の制定

(3) グローバルな事業展開

アジアの多様性を活用した国境を超えた企業活動の推進

FTAやAD等通商政策の活用

適地生産によるコスト削減

以上